

「地図は現実の選択的表示である」

2006.12.14

地図には、その製作者が必要だと考えたものだけが描かれています。

1933年にハリー・ベックによって製作されたロンドンの地下鉄路線図はその典型です。正確な方角や距離は無視され、路線の色分け、駅の順序、乗り換え駅など、ごく限られた要素だけで構成されています。地上との関係を示す要素はテムズ川だけです。



出典：Historical London Underground Maps  
<<http://uk.geocities.com/lhsoicher/undergroundmaps.html>>

今日は、様々な都市の地図を見て、その「現実の選択的表示」としての特性について考えます。

※本日の標題はジェレミー・ブラックによる。

サンプルから興味のある地図をふたつ選び、その地図の「選択的表示」について、特徴を探してください。たとえば：あえて表示されているもの、あえて表示されていないもの、特に強調されているもの、その表現などを検討しましょう。

少なくとも3つ発見して、それぞれ、その特徴が作者のどんな意図を反映しているのかとあわせて記述してください。



全員で発見を発表して共有し、「現実の選択的表示」としての地図の特性について議論します。

次回は12月21日です。

#### 参考文献

ジェレミー・ブラック『地図の政治学』関口篤訳、青土社、2001

若林幹夫『地図の想像力』講談社選書メチエ、1995